

目的 乳児用品，衣料について出産前の準備は母親が主体である。そこで母親側からみた乳児ウェアのイメージ構造をしらべ，形態，素材，柄，色彩とを対応させる。その位置関係から乳児ウェアの選択基準となる感情要因を明らかにすることを目的とした。

方法 乳児を連れた母親を対象とし，乳児ウェアの形態，素材，柄，色彩をしらべる。その色彩を次の10尺度について5段階で評定させる。

- 1 好きな， 2 乳児らしい， 3 清潔な， 4 夢のような， 5 可愛らしい，
- 6 やわらかい， 7 美しい， 8 明るい， 9 上品な， 10 無難な，

調査は1978年5月15日（月）11～15時の時刻に千葉県柏そごうデパート，ベビー休憩室，育児相談ルームを利用した乳児55名（男25，女30）について実施した。第1子をもつ母親の年齢分布は23～29歳が最も多く80%である。平均気温18.6℃，日照時間10.8h，色彩はJIS Z 8102，8721，8723に準じた。

結果 主成分分析による因子負荷量は第1主成分はすべて正の負荷量をもち，値の大きい順に可愛らしい0.84，清潔な0.75，やわらかい，乳児らしい0.70，第2主成分以下は正と負の負荷量をもつ，上品な0.74，美しい0.71，第3主成分は無難な0.55，第4主成分は好きな0.65で，累積寄与率は77%であった。つまり第1主成分は実用性，第2は美的評価，第3は機能性，第4は感覚的評価で説明できる。個人値による位置関係から清潔さ，やわらかさにはうす青，うす黄，美しいはうす赤，好きなは白と対応する。したがって乳児ウェアのイメージを表現する手がかりは色彩が決定要因であるといえよう。